４月　「発達障害啓発週間（４／２～４／８日）」「世界自閉症啓発デー（４／２）」・・・外見では不自由さが伝わりにくい障害があります。みんなが暮らしやすい社会をつくりましょう。

十島村教育委員会だより　平成 30 年３月号

心わかかトカラ情報

南北１６０km
「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会
〒 892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

3 月・・「フェリーとしま 2」就航式典

十島村教育長　有　村　孝　一

十島村にとって「船」は国道と同じです。まさに、海の国道なのです。人はもちろん。役場からの文書、食料品、郵便、牛等。すべてがこの船に頼っています。それだけに、村の人々がこの船に寄せる思いというのは並々ならぬものがあります。まさに「自分たちの船」であります。

いよいよトカラ列島にデビューする時がまいりました。平成 30 年 4 月 2 日がその日です。約 18 年ぶりに新造船が作られました。全長が 93.47 m、幅 15.80 m、総トン数 1，953 トン航行速力 19.0 ノット、旅客定員 297 人搭載貨物がコンテナ 26 個、乗用車 15 台、12 m トラック 3 台という現行船のどれをとっても大型化されています。

大型化のみならず、馬力増により航海時間がだいぶ短縮されます。また、ランプウェイ等の装備の向上により出入港作業の効率化も望めます。一方で、長時間の航海となるため、船内を快適に過ごせるようにとの快適性も十分に考えてあります。

「フェリーとしま２」のお披露目が 3 月 16 日（鹿児島会場）と 3 月 20 日（奄美会場）に行われました。多くの来賓においでいただいて船を見ていただきました。船の中は、現行船に比較してとてもコンパクトに区切られ、観覧された方々からもすごいというような声が聞かれました。

夜は、それぞれの会場で祝賀会が開かれ、造船に関わった多くの方々との苦労話や期待で大いに盛り上がりました。アトラクションとして島の女性部によります「トカラ黒潮音頭」の踊りと宝島の児童生徒等によるスティールドラム演奏があり、拍手喝采でアンコールの要請もあり、たいへん盛り上がりを見せました。

これから、約 10 数年の間新船にお世話になりますが、先人の思いに心を馳せながら、ますます便利になった新しい十島村に期待をしたいと思います。

4 月 2 日は、新たに赴任する先生方とその家族を乗せて、第一次航が出発します。その日の南埠頭は、いつもの年にもまして大勢の人で賑わうことでしょう。

海の国道を行く「フェリーとしま２」が各島に来ましたら、大きな拍手で迎えていただきたいと思います。「自分たちの船」をいつまでもいつまでも大切にしていってほしいものだと思います。

平成３０年　春季全国火災予防運動(3／1～3／7)

『火の用心　ことばを形に　習慣に』

シリーズ――新聞に投稿「若い目」

（３月９日掲載）諏訪之瀬島小学校１年　山崎郁矢

とびばこできたよ

ぼくたち小学生はたいいくのじかんに、みんなでとびばこをしました。ぼくは「かいいくとび４だんとだい上ぜんてん３だんがとびたい」と思っていました。でも、一生けんめいやってもぜんぜんできませんでした。そのとき、ともだちや先生がお手本をみせてくれたり、れんしゅうをたくさんさせてくれたりしたおかげで、さいごにとぶことができました。

どりょくはひつようだなあと思いました。こんどは５だんをクリアしたいです。

「体力アップ！チャレンジかごしま」２年連続学校賞受賞！　悪石島小学校

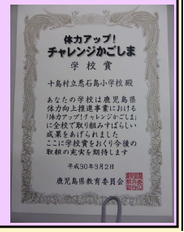
本村のどの学校も、鹿児島県体力向上推進事業における「体力アップ！チャレンジかごしま」に取り組んでいます。

小学校では、学年により異なりますが、「長縄エイトマン」「馬跳びピョンピョン」「一輪車でＧＯ」「10 人でチャレンジ」などといった種目があり，各学校からの申告によりランキングが決まるシステムです。

前期でも、十島村の多くの学校が郡のランキングで上位に入っていました。

今回の悪石島の学校賞は，年間の取組が評価された結果です。県内の小学校３９８校の中から１１校が授賞した訳ですから、２年連続というのはすばらしい事なのです。

子どもたちの頑張りに，心から拍手を送ります。おめでとうございます。



十島村社会教育学級について

各島には，それぞれ社会教育学級があります。この学級は，教頭先生に学級主事をお願いして，年間１０回程度の講座を開設していただいています。

社会教育学級は，一般的には成人を対象とした学級です。現代社会は，情報化の時代であり，学ぶ機会は多種多様です。放送大学や電子書籍もあります。　でも，昔から「成すことによって学ぶ」（デューイ）とか「知識は体験によって知恵となる」などとよく言います。

講座内容は，地域の方々のニーズや現代社会における喫緊な課題，教養を高める内容，人生を豊かにする趣味的な内容など，各学級主事の教頭先生方が工夫して開設していただいています。

社会教育学級は，学校卒業後の大人にとっての学びの場です。これからも，多くの方々に参加していただき，生涯学習時代・超高齢化社会の新たな生き方の参考にしてください。教頭先生方，本当にありがとうございました。

シリーズ―― 十島村で学ぶ「宝島が変えてくれた」

宝島小学校5年　尾家　礼都

ぼくがこの宝島に来て二年が過ぎました。そして島での生活は、ぼくをいろいろと成長させてくれました。

まず、生活でのぼくの仕事です。それは、毎週土曜日に来る一週間分の食材を家の中に運ぶという仕事です。今まで住んでいた鹿児島では、毎日買い物をすることができるので、父や母が車から一人で運んでいました。そのとき、ぼくは「大変そうだな。」くらいしか思いませんでした。しかし、この宝島では一週間分が船で送られてくるので、車から父一人で運ぶのは大変な作業です。だから、手伝うようにしています。初めて手伝ったとき、父は「手伝うの。」とおどろいた顔でたずね、うれしそうに笑ったことが忘れられません。

次に、習い事です。「楽しそうでやってみたい。」と思って始めたバドミントン少年団。しかし、自分より年下の相手に負けてしまってくやしい思いをしました。そこで、他の人よりも強くなるために土曜日にしている中学生の部活に参加させてもらうことにしました。今までなら、土曜日はゆっくりとゲームをしたり、昼寝をしたりしていました。しかし、年下に負けたということで強くなりたい気持ちでいっぱいでした。

また、中学校の体育の先生にお願いして朝のトレーニングをしてもらうことにもしました。中学生の部活や朝のトレーニングは、思ったよりもはげしくてついて行くので精一杯でした。練習が終わった後は、汗がぽたぽたとあごから落ちて、息が切れるくらいでした。それでも、負けたくないという気持ちがぼくの背中を押しました。その結果、負けた相手に勝つことができました。

これらのことから、ぼくは、「人のことを気づかう」ということ、そして、「自分で動く」ということができるようになりました。また、人より「努力」すること、そしてそのためにお願いする「勇気」もつきました。

ぼくを変えてくれた宝島。そんな宝島が教えてくれたことを「宝」にしてこれからも大事にしていきたいです。

祝　がんばっています！

◎　第３３回県ゆめ立体・彫刻展特別賞

諏訪之瀬島小学校２年　沖園豪陽くん

◎　県「明るい選挙映発標語」コンクール　優秀賞

口之島中学校２年　中村　拓海くん
「投票は　自分の未来　託す手段」

◎　岩崎賞（努力と卒業後の検討を激励する賞）

諏訪之瀬島中学校３年　山中雪嘉さん

シリーズ――新聞に投稿１「ふるさと発見隊」

（２月２０日掲載）口之島中学校２年　中村　拓海

島の自然や伝統守る

僕は、自分たちが書いた記事が新聞に載っているのを見て、とてもうれしく思いました。また、口之島や学校の魅力を多くの方々に紹介することができました。今回の取材で、島民の憩いの場である「カワ」を大切にしたいという気持ちが、さらに強くなりました。口之島の自然や伝統を僕たちがしっかりと守り、引き継いでいきたいと思います。

【小宝島小・中学校からのメッセージ】

教頭　萩原秀一郎

小宝島に赴任して１年が過ぎようとしている。この１年間に多くの方々と出会いと別れがあった。フェリーとしまに最初に乗船した時は，手作りの横断幕の前で，見送りに来た先生方と校歌を歌い涙したことを思い出す。

鹿児島港を出港し，１２時間後，小宝島で迎えてくれた３匹の海亀と，地域の方々。通船をしながら集まった本校の職員。みんな笑顔で，たくましい姿を今でも覚えている。家族３人での小宝島での生活は，いつしか，小宝島の地域の方々との大家族での生活に変わった。学校での生活。地域行事にみんなで参加する。企画・運営も，いつも小宝島で生活している人々と共に協力し喜びを分け合う。小宝島の大家族のことを考える日々である。そのような中，児童生徒は，やはり小宝島の宝である。児童生徒の存在や，活躍がこの島を元気にしているからである。

『教職員仲間であるあなた』へ

私からのメッセージ】

「一期一会」多くの方々が，児童生徒の笑顔や頑張る姿を応援して頂きました。出会いと別れの時期ですが，いつまでもお元気に活躍されてください。